

こんにちは
保健師です

未成年の飲酒を予防しよう！

保健福祉課
保健指導係
電話 52-2144

毎年4月は「未成年者飲酒防止強調月間」です。

この時期は、新入生・新入社員歓迎会などで、飲酒の機会が増える時期だと思えます。問題なのは、その中に未成年者が含まれていることです。

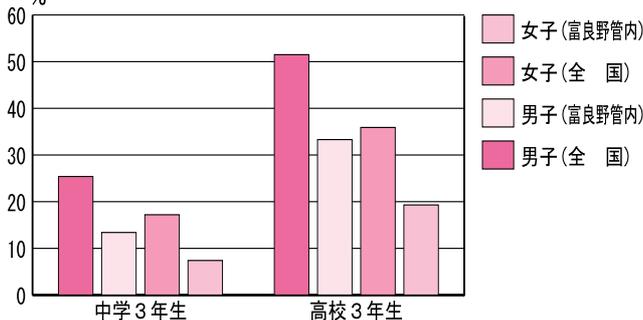
日本では、20歳未満の飲酒は法律で禁止されていますが、近年、喫煙者数とともに増加してきている傾向にあると言われています。

平成12年に実施した富良野圏域調査「学校アンケート」では、中学・高校生の飲酒が全国平均より富良野管内は低い割合でしたが、既に月に1〜2回以上のペースで飲酒している人がいるという結果がでました(表1)。

では、南富良野町の未成年者の飲酒状況はどうなのでしょう？

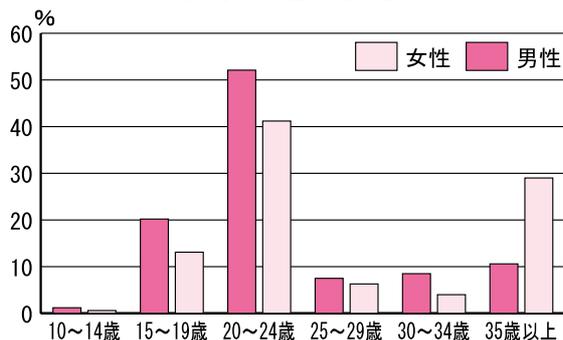
平成14年に「南富良野町生活習慣実態調査」を実施

表1 未成年者の飲酒状況
(月1-2回以上の頻度で飲酒している生徒・学生)



し、飲酒の開始年齢を聞いたところ、10代から開始していたという人は、男性21.4%、女性13.7%であり、特に15〜19歳の年代で開始する人の割合は、他の年代に比べても高くなっています(表2)。また、20代、30代と年齢が若いほど、早くから飲酒を開始している傾向がありました。

表2 南富良野町の飲酒開始年齢



未成年者の飲酒は、身体や精神に様々な影響を与えます。下記に代表的なアルコールの害をあげます。

未成年者の飲酒開始のきっかけは、家族との食事が多く、富良野圏域においても、お酒の入手方法で最も多かったのが家にある「お酒」でした。周囲の大人が「お酒は20歳になってから」と認識し、未成年者の飲酒を予防しましょう！

《 未成年者に与える代表的なアルコールの害 》

身体の成長を妨げる

身体的な発育の発達途上にあるため、身長・体重だけでなく、女子の無月経や男子の女性化乳房といったホルモン分泌系への影響も大きいと言われています。



アルコール依存症が大人よりも早期に形成される

アルコールの分解が遅いので、アルコールの代謝産物であるアセトアルデヒドが体内に長く貯留し、早期にアルコールへの耐性がつき依存症に陥ります。



急性アルコール中毒を起こしやすい

アルコール代謝酵素が未成熟な状態で、自己コントロールが未熟な時期に大量に飲酒するため中毒を引き起こします。急性アルコール中毒で救急搬送される人の約1割が未成年者という統計もあります。



「ゲートウェイドラッグ(薬物への入口)」になりやすい

飲酒をきっかけに、たばこや麻薬・覚醒剤などに手を出しやすくなります。

